

令和6年度 夢ワカメ・ワークショップ実施報告書

所在地：横浜市西区平沼 2-4-22 ジェネシタ 202 号

団体名：特定非営利活動法人海辺つくり研究会

代表者：理事長 古川 恵 太

1. 事業名

1) 活動事業名

第 24 回 夢ワカメワークショップー横浜港におけるワカメの育成による海域浄化ー

2) 活動目的

横浜港海域において、海水の水質を浄化することによって、港湾および海辺に対するイメージアップを図ることは、横浜港の活性化に大きく寄与するものと考えられる。

海水の浄化方法はさまざまなものがあるが、ユニークな手法として、海藻類の利用がある。海藻類は、生長に伴って海水中の窒素やリンを吸収し、海水の富栄養化の防止に効果のあることが知られている。とくにワカメは生長が早いため、それだけ海水の浄化効果が高いことや、他の水産有用生物の滋養効果があることが言われており、各県においても海の森づくり事業などが積極的に推進されている。海域環境の再生は徐々にではあるが、広く認知されつつあるものの、一方で、広くその効果や有用性を理解されるまでには至っていないことがほとんどである。

これまでに、横浜港において、ワカメを生育し、水質浄化効果の検証を行い、その効果が検証された。事業は子どもたちを含む一般市民や企業の参加により実施され、環境学習面、市民参加の東京湾の浄化、食育、一般市民の環境意識の啓発に効果があることが解り、また全国豊かな海づくり大会かながわ大会の行事の一環として実施されたことで、市県民の環境に対する意識を啓発することに効果があることが解るとともに、民間企業、横浜市のカーボンオフセットの取り組みとの連携も進みつつある。

今年度は、さらに参加者を募り、東京湾の環境再生に向けての一層の理解を得ることや、海域の浄化・CO₂の吸収貯留への理解、生物多様性保全の促進をさせることを目的として実施した。

2. 事業内容

(1) 市民団体の連携

事業を実施するにあたり、市民団体で実行委員会を形成し、事業実施にあたった。参加した市民団体は、(海辺つくり研究会、海をつくる会、金沢八景-東京湾アマチ場再生会議、ともに浜をつくる会、みなとサポート、よこはまかわを考える会、楽竹会、東京湾の環境をよくするために行動する会)の 8 団体である。事務局および責任には海辺つくり研究会があたり、実行委員長は海をつくる会の坂本昭夫が担うことと

なった。協賛は東京ガス（株）マルハニチロ（株）東京海上日動火災保険（株）日本テレビ放送網（株）からいただき、共催として、国土交通省関東地方整備局港湾空港部に入っただき、許認可申請等での協力を頂いた。横浜市港湾局、横浜海上保安部、神奈川県水産課からそれぞれ許認可を頂き、後援を横浜市港湾局、東京湾を良くするために行動する会から受けた。また、パシフィコ横浜、インターコンチネンタルホテル横浜、神奈川新聞、しみなとみらい21からも協力をいただいた。

(2) 許認可申請

事業実施にあたっては、海上保安部への作業許可申請、港湾管理者である横浜市港湾局への水域占用許可申請、神奈川県水産課への漁具敷設許可申請を行った。

(3) ワカメ生育ロープ設置（12月7日実施）

設置前日に、実験実施場所に仕掛けを下ろした後、ワカメを親繩毎垂下させる。親繩に結束した張り繩を岸壁から垂下させ、それぞれの張り繩の長さを調整して展開させた。

例年は参加者を募集し、ワカメの種糸の取り付け、プラバンによる名札の取り付けを行い設置した。





(4) 実施内容の広報

- ・ 実施している内容をパネルにして会場に設置した。



(5)生育ワカメの観察、生育管理（12月22日、1月19日、2月9日に実施）

ダイバーにより海藻の生育状態を観察した。

海水温上昇の影響から、例年に比べて水温が10度を割ることはなく、最低でも10度程度で推移した。また高い水温からか、前々年度にはクロダイ、メジナの食害にあい、ほとんどのワカメが食べられてしまったために、今年度は昨年同様に防護ネットの取り付け、対策を取った。ワカメの生育に適した水温に比較的早く下がり、適度な降雨による栄養塩補給、食害防止が功を奏し、最終的な回収において、1055 kgの収穫に至った。

この様子については、メール通信「ワカメからのメリークリスマス」「ワカメからの謹賀新年」などとして参加者に配信した。

12月22日点検

ワカメからのご挨拶 メリークリスマス

夢ワカメ・ワークショップ参加者の皆様

皆さんが種糸をとりつけたワカメの生長を確認するため、12月22日に第1回点検をしてきました。1 去年は、魚の食害にあいましたが、ご安心ください。今年は食害対策として、設置当初から囲い網をしたのが、良かったようです。そして中には大きなものでは既に20cm程度にもなっています。

このまま生長を見守りたいと思います。今後の生長を期待していただきますね。



次回点検は1月19日（日）の予定です。

まだまだ生物を豊かにしたり、温暖化対策をしたりは、みんなで頑張っていかなければなりません。それでも、美味しく楽しく取り組んでいきたいと思えます。新しい年はさらに明るい年にしたいですね。インフルエンザも流行っているようです。お体には十分お気をつけてください。

それでは、良いお年をお迎えください。

夢ワカメ・ワークショップ実行委員会 拝



1月19日点検

ワカメから新年のご挨拶

朗報！

夢ワカメ・ワークショップ参加者の皆様

皆さんが種糸をとりつけたワカメの生長を確認するため、1月19日に第2回点検をしてきました。設置当初は水温が異常に高かったものの、水温も下がり表層の水温も11度とワカメの生長には、最適な温度になっています。防御ネットを張った効果もあり、種糸は順調に成長をしているようです。すでに1.5m近くなっているものもあります。収穫までにどれくらい生長してくれるかは不明です。大きさにはそれぞれ差がありますし、自然にさらされているわけですから、これからまだ何があるかわかりません。水温が上がり栄養不足になり生長が止まることも、さらに生長しすぎて脱落することあるかもしれません。それでも生長を期待しててくださいね。このまま行けば、例年のように大きなものをお返しすることができそうですが、水温が早い段階で高くなる恐れもあり、生長疎外になる恐れもあります。

地球温暖化防止につながるような行動を意識しながら、見守っていただければと思います。

次回点検は2月9日（日）9時からの予定です。見学は自由です。

本年が皆様にとって、素晴らしい一年になることをお祈りいたします。

夢ワカメ・ワークショップ実行委員会 拝

前回点検の時のワカメ



1月19日の様子

点検の様子はこちらから見ることができます。

<https://youtu.be/dqcGA2U3i2I?si=oAvChBPzaJX7Zdvk>



2月9日点検

ワカメから収穫前のご挨拶 大きくなりすぎちゃいました！

夢ワカメ・ワークショップ参加者の皆様

皆さんの種糸をとりつけたワカメの生長を確認するため、2月9日に第3回点検（最終）をしてきました。例年であれば年始になり水温が急激に下がることで急激に順調に生育するのですが、今年は水温も10度くらいになり、囲い網を取り付けたのも効果があり、大きなものでは既に2m近くになっているものもあります。もちろん、自然にさらされているわけですから、これからまだ何かあるかわかりません。大きくなりすぎて脱落の恐れもあります。が、参加者の皆さんには予定どおりお分けできそうです。

今回は回収です。2月22日（土）10時集合で開始の予定です。

受取時は、受付の際にお送りした受付票を印刷し、ご自分の受付番号を記入し、必ずご持参ください。ワカメは、班ごとにお呼びし、それと引き換えに切り分けたものをお持ち帰りになります。不明の場合は事前に事務局にお問い合わせください。

今年は、みなさんで切り分けていただき、お分けしたものは、計量係のところで重量を計り申告してください。全員で海をきれいにした量を計算します。配分するのに、時間がかかりそうで、お待たせすることになるかと思いますが、ご容赦ください。

受け取りの際は、ご持参したビニール袋に入れ、さらにそれを入れるための、濡れ物を入れる袋をご持参ください。（90リットルのゴミ袋二枚重ね）
重いので持ち帰りにはキャスター付きのバックがあると良いかもしれません。一人5キロ程度はあることも予想されます。

夢ワカメ・ワークショップ実行委員会 拝



大きくなりすぎて全体が写りません



(6)生育ワカメの撤去回収 (2月22日実施)

護岸に係留している張り縄を外し、岸壁に係留している張り縄をたぐり寄せ、親縄をはじめとする全施設を岸壁上に引き揚げた。

- ・ 個別にワカメの重量を計測し、全員の合計重量から、窒素およびリンの回収量を計算し、海をどれくらいきれいにしたかを全員で確認した。結果、回収総重量 1055kg、総炭素量 19.3kg、総窒素量 2.4kg、総リン量 0.7kg となり、
- ・ これを CO2 貯留量で換算すると、1.97 kg (Jブルークレジット係数換算) に相当する。



3. 活動事業場所および時期

(1) 活動場所

- ① 神奈川県横浜市西区みなとみらい 臨港パーク前面水域（下図参照）



(2) 活動時期および日程

令和6年12月7日～令和7年2月22日（全体工程78日間）

令和6年12月7日 設置

令和6年12月22日 観察・点検

令和7年1月19日 観察・点検

令和7年2月9日 観察・点検

令和7年2月22日 観察・回収・施設撤去

4. 参加者の構成

一般市民延630名（一般参加者500名・スタッフ130名）

5. その他

(1) 活動参加者の募集方法

ホームページおよび実行委員会参加者・前回参加者の口コミによる募集を行った。

24年継続実施の人気イベントとなっているため比較的早く埋まった。

(2) 活動の安全確保等に関する指導

海上および船上で活動するスタッフにはライフジャケットやウェットスーツなどを装備させるとともに、緊急用のダイバーの配備を行った。

また、活動前に保険加入（傷害保険・損害賠償責任保険）を行った。

(3) 活動終了後の活用方法等

岩手県釜石湾漁業協働組合との交流事業として、また横浜市漁業協同組合や横須賀市東部漁業協同組合の協力も頂きながら一般市民と漁業者の交流を継続させており、今回も協力を得ながらの実施となった。

(4) その他

・日本テレビ系放送のTHE！鉄腕！ダッシュ！！内、およびつり情報誌にて放送、紹介された。





特定非営利活動法人 海辺つくり研究会

団体概要

活動内容

海辺地域の調査研究・研究開発活動、行政と市民のパートナーシップ構築のためのインタープリターとしての活動、人材育成・普及啓発活動など

所在地 神奈川県横浜市西区平沼2-22 ジュネスササキ202号
 会長 理事9名、監事1名、顧問10名

脱温暖化に関する主な取組内容

〈わかめ等の海藻地産地消によるCO₂削減〉

実施概要

夢わかめワークショップの参加者にわかめの播付・収穫・試食を体験させることで地産地消を行い、市外産わかめと置きかわることで、運搬等によって排出されるCO₂を削減する。

実施場所 みなとみらい臨海パーク周辺

成果 1.0t-CO₂の削減(102.4+127.3) 1.0t-CO₂の削減(107.4+128.3)
 1.0t-CO₂の削減(103.4+109.3) 1.0t-CO₂の削減(109.4+130.3)



ワークショップ参加者



味噌汁にして味わう



再生したアマモ場

横浜の海への思い

夢わかめワークショップの活動は、横浜港内の水質浄化、CO₂の固定蓄積、生物多様性の保全を目的にスタートしたのですが、毎年、近600名もの参加者とともに実施しています。ここで育成したわかめは、参加者がおいしく食べていくことで本来の目的を達成させていくとしますが、その一部は、海外の山産菜類で、ヨード不足により健康被害の出ている子どもたちにも食品として、食べていただくというプロジェクトにも参加しています。ほんのわずかなものではあるのですが、大きな意味では、国際的な連携を促進することにも繋がります。近年では、東京ガスや、エコハマブランドインターコンチネンタルホテルの協力で、食育のための料理教室にも活用されています。様々な方々が、関わりを持つことで、CO₂の固定だけでなく、種々に価値を持たせることができるようになってきました。こうした活動の流れは、アジア圏東部圏の創生でも、国際的な見本として紹介されることも予定されています。単元の海を豊かに楽しんでいることが、国内だけでなく、国際的な見本となるようにしていきたいと考えています。

HP: <http://umibeken-blue.com/ja/index.html>

お問合せ先: 特定非営利活動法人海辺つくり研究会 TEL: 045-321-8601, E-mail: umibeken@nifty.com



活動団体概要について

事務局団体の概要は、以下のとおりです。

1. 団体設立年月日：平成 13 年 5 月 1 日設立

平成 14 年 5 月 16 日 NPO 認証

平成 14 年 6 月 5 日 NPO 法人登記

2. 設立目的：

沿岸域環境の保全・再生・創出や自然と共生する海辺づくりに関する事業を、先人の知恵や多くの市民の新しい知恵に学びながら、積極的に推進し、地域の振興や地球環境の保全に貢献することを目的とする。

3. 活動概要：上記の目的を達成するため、次の事業を行う。

(1) 特定非営利活動に係る事業

① 調査研究・研究開発

ア 海辺づくりに関する情報の収集、公開、および情報データベースの構築、公開

イ 海辺環境のモニタリング、調査研究、計画、評価およびその情報公開

ウ 海辺環境の保全・再生・創出技術の開発と普及

② 行政と市民のインタープリターとしての活動

ア 海辺づくりに関する政策の立案協力・提言

イ 行政と市民のインタープリターとしての専門家の派遣協力

ウ 情報共有のためのツールの提供

③ 人材育成・普及啓発

ア 海辺づくりに関する研究交流会や市民、子供向け環境教育イベントの開催

イ 海辺環境の保全・再生・創出に関する国際協力および国内各地域との連携の推進

ウ ホームページによる情報公開

エ シンポジウム・セミナーの開催

オ 事業成果の出版、販売

(2) 収益事業

① 沿岸域環境の保全・再生・創出に関わる調査・設計・施工

② 沿岸域環境調査・アセスメント調査の受託

③ 沿岸域環境創出関連製品・施設・設備の販売

④ 沿岸域環境保全意識啓発関連製品の販売

4. 連絡先（団体事務局）

所在地：〒220-0023

横浜市西区平沼2-4-22 ジュネスササキ 202号

団体名：特定非営利活動法人 海辺つくり研究会

代表者：理事長 古川恵太

電話番号：045-321-8601

FAX 番号：045-317-9072

担当者名：木村尚（きむらたかし）

担当者連絡先

電話番号：045-321-8601

FAX 番号：045-317-9072

E-mail：umibeken@nifty.com

以上